

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス なないろひろば		
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日		～ 令和8年3月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年2月16日		～ 令和8年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	食育を重視し、クッキング活動を通じて生活力と自立を育成ソーシャルスキル支援にも注力。 自立支援としてさまざまな家事体験をしている。 いろいろな職業の知識を伝えている。	主体的に参加できる環境を整え、成功体験の積み重ねを大切にしている。 児童が関心をもっている遊びを通してルールを覚えてもらう。	日常生活に直結した支援を行い、将来の自立を見据えている。 情報の読み聞かせ、社会体験などを通して、なりた姿を育てる。
2	食材に触れる・作る・食べる流れを大切に、挨拶・順番・協力を日常の中で習得。 世界の食文化を伝え、味覚・嗅覚を育てる。 自炊の部分的経験を増やしていく。	活動の中で役割を持たせ、自信や達成感につながる支援を実施。 承認、ほめて育てることを基本にしている。	調理・片付け・身支度を繰り返し行い、習慣化を促進。 食材の由来、使い方、味わい、食器の洗い方しまい方を伝え 感謝の気持ちをいつも意識する。
3	調理活動の充実と、ソーシャルスキル支援の体系化を進める。 体幹トレーニングで体のバランスを整える。	個々の特性に応じた役割設定を強化し、自己肯定感を高める。 個性を生かし、好きなことを広げていく。	家庭・学校と連携し、生活スキルの定着を図る。 できることから始め自信をもって自立できるよう促していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ソーシャルスキル支援の専門性向上。 感覚統合支援の専門性、社会モデルの環境設定を充実していく。	個別支援計画と自立支援の双方から今後の活動を計画していく。 より具体的に職員間にも伝え、意見を出し合っ進めていく。	家庭との連携強化。 児童の苦手なところを考慮しながら活動を調整していく。 環境調整も整え、支援を深めていく。
2	個別対応と職員間での情報共有を実施。 支援計画を常に共有。職員間での専門性を高め、常に学びの意識をもつ。	職員が付き添い段階的に支援。 児童それぞれの特性理解を深め、PDCA化する。	活動内容を保護者へ共有。 活動の意味を理解していただき、効果を実感していただく。
3	支援内容の見える化と体系化を進める。 氷山モデルの共有認識を深め、チームを協力にしていく。	工程の細分化と役割分担を明確化。 職員それぞれの持ち味や得意分野を生かし、相互協力をさらに強くしていく。	家庭での実践につながる支援を強化。 不安になられていることや将来への希望について一緒に考えていきたい。